

氏名： 荻原 千鶴 (OGIHARA Chiduru)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
学位： 博士 (人文科学) (1996 お茶の水女子大学)  
職名： 教授  
専門分野： 日本文学、特に日本上代文学  
E-mail： iwasaki.ogihara.chizuru@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

古事記／風土記／万葉集

#### ◆主要業績

総数 (3) 件

- ・『日本書紀』の天照大神と素戔鳴尊  
『歴史読本』第52巻12号(新人物往来社) 218～225頁、平成19年11月
- ・『万葉集』の「見る」歌—初期挽歌を中心に—  
『2007年台大日本語文創新国際学術検討会論文集』 13～23頁、平成19年11月
- ・『日本女性史大辞典』(吉川弘文館)項目執筆  
『万葉集』・衣通郎姫など8項目、平成19年12月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

『古事記』の天照大御神と須佐之男命については、ウケヒ・天孫降臨をめぐる論考を既に発表しているが、2007年度は『日本書紀』の天照大神と素戔鳴尊を研究対象とした。『日本書紀』における名称や出生・昇天・ウケヒのあり方を分析し、天照大神が世界を分節する者として登場し、『古事記』において完遂されるプロセスを解明した。『日本書紀』が『古事記』に比して天照大神の絶対性が不徹底であるように見受けられるのは、『日本書紀』の意図した結果であり、むしろ至高性の曖昧な天照大神像を積極的に形象化しているものであることを考究した論考を発表した。

また一方、『万葉集』における「見る」歌を研究対象とし、「見る」ことをうたう歌が、雑歌や相聞においてはもとより、挽歌においても魂の交流に関わる重い意味をもつことを解明した。そうした観点から考察すると、倭太后による天智天皇挽歌が、従来の説とは異なる新たな解釈を生ずることを究明し、それらの考察を論文として発表した。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、日本古典文学史論（上代）・日本古典文学論特殊研究（上代）・日本古典文学論基礎演習Ⅰ・日本古典文学論演習（上代）・日本文学研究指導・基礎ゼミⅠの授業を担当した。このうち文学史は、記紀・風土記を中心に文学の史的展開について講じた。特殊研究では万葉集各期の代表的な歌を取り上げ、時期を追っての変容のあり方や歌人の特性を考察する教育を行った。基礎演習では日本文学を研究するにあたっての基礎的トレーニングを、演習では日本上代文学を研究するにあたってのトレーニングを指導した。日本文学研究指導では、学生の卒業論文作成のための指導を行った。基礎ゼミⅠでは、日本霊異記を素材として、調査・考察・発表資料作成・発表・レポート作成等の具体的指導を行った。

大学院博士前期課程では、日本上代文学表現史論・日本上代文学特論の授業を担当した。日本上代文学表現史論では初期万葉歌の仮託説をめぐる先行論文の講読を行った。日本上代文学特論では記紀の海宮遊行の諸異伝の分析考察についての指導を行った。

## ◆研究計画

『風土記』の実況記事の分析を進める。それを通して『出雲国風土記』にとっての説話の意味についての研究を深め、また西海道風土記の甲類・乙類の関係性の研究に進展させる。

## ◆メッセージ

『古事記』『風土記』『万葉集』など日本上代の文学は、1300年も前に書かれたものです。古代の人々の、現代とは大きく異なるものの考え方・感じ方がうかがえますが、それだけにかえて、現代の私たちの中に埋没してしまっているものを、はっと気づかせてくれたりするのが、古典を学び研究することは、現代を考えることにつながると、私は思っています。上代の作品にも、ぜひ目を向けてみてください。